

[社 会]

一次資料を活用した地域の教材化を通して追究と 思考を深める社会科指導

— 郷土誌「日越の大地」を手がかりに、「話し合い」を核とした6学年授業開発の試み—

新澤美和子*

1 はじめに

学習指導要領改訂の基本方針¹⁾は、社会科について「社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力を養い、社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向で改善を図る」としている。第6学年では、「社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるようにすること」とし、実際の授業では問題解決的な学習などの一層の充実や比較・関連付け・総合しながら再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習を行うことが求められている。

これまで教科書や資料集をもとに人物を取り上げながら、日本全体の動きを理解させる授業を展開してきた。児童に写真やグラフなどの資料を読み取らせ、その変化や気づいたことを話し合わせることで、思考力をつけさせたいと考えてきた。しかし、児童の意識では「社会科は暗記するもの」、「自分の生活とは関係がないもの」ととらえがちで、学習意欲を高めることができなかった。その一因には、社会的事象に主体的に関わるような手だてが不足していたことがあげられる。社会的事象に主体的にかかわる手だて、そのかわりを通して思考・判断をする場面が必要である。

松岡²⁾は「歴史学習において他の人との対話や自己内対話を手だてとして、地域素材を生かして実感をもたせる指導をすることが重要である」と述べている。小学校の歴史学習で地域素材(城下町高田)を活用し、学習活動の中に対話を取り入れていることは注目すべき点である。この指摘に基づくなら、地域素材の開発そのものが重要となる。荒井³⁾は「身近な地域素材でなくとも歴史的な事象に関する価値ある資料を提示し、その背景や人物の取組について対話を通して考え、その働きを評価する活動の意義」を強調している。地域素材でなくとも価値ある資料の提示が重要と述べられているが、価値ある資料の定義が曖昧である。

話し合いの重要性について安野⁴⁾は「自分と違った考えをもつ他者との対話を通して、相手の存在を鏡にしながら自らの見方や考え方、判断などをより確かなものにしていくことを重視し、対話で学び合うことが大切である」と述べている。対話や話し合いを取り入れ、考えを深める実践については松岡⁵⁾ 荒井⁶⁾の実践により、有効性が実証されている。

2 研究の目的

地域素材を扱うことで、社会的事象を児童が主体的にかかわれるもの、より身近なものとし、それらを基盤にした話し合いが「思考力・判断力の育成」に果たす有効性を検証する。

先行研究では対話という用語を用いる場合が多いが、対話には様々な定義があり、論者によって立場が異なる。本論は児童同士の意見交流と思考との関係に焦点を当てるため「話し合い」という表現に統一する。

3 指導の手だて

【手だて1】 地域素材の活用

身近な地域の歴史を取り上げることにより、実感をもって歴史的な事象を追究する授業としたい。しかし、地域には史跡が少ない。そこで、古文書も含め、可能な限り原典に当たり、一次資料を生かしながら地域の教材化を行うこととする。具体的には郷土誌「日越の大地」⁷⁾や長岡市史⁸⁾を手がかりとして、長岡科学博物館、長岡市文書資料室などの専門機関からも協力を仰ぎながら、より児童に歴史を身近なものと感じさせられるような教材を発掘し、教材化を図る。

* 長岡市立日越小学校

【手だて2】 話し合いの場の工夫

地域の資料を活用し、実感のともなう基盤に立った上で、グループでの意見交流・意志決定の場を取り入れる。一人一人の考えをグループでまとめることにより、違う立場の考えに気が付くことができるようにする。また、学習課題の中に、地域の事例を有効に組み入れ、葛藤場面や意志決定を意図的にするような場面を作る。これらにより課題を解決するためにグループでの話し合いが必要な状況を創出する。このことで、地域という窓口を通じて社会的事象に主体的にかかわらざるを得ないようにしていく。

4 実践1

(1) 単元名 『武士の世の中を探ろう』(10時間) ~江戸時代の日越について考えよう~ (2時間)

(2) 教材について

校区を通っている柏崎街道を取り上げた実践を行った。郷土誌「日越の大地」の資料を活用し、地域の江戸時代の絵や地図・図などを用い、日越地区はどのような生活をしていたのか、どんなところであったのか、を考えさせることで身近なところで歴史がつながっていると感じることができると予想された。人々の往来や物の運搬、参勤交代ともかわらせて考えさせた。また、地域の史跡や文化財も写真などで取り上げ、「見たことがある」「まだ他にもありそうだな」など、興味や関心をもてるようにした。考えを深めるために、まず資料から自分の気が付いたことを書かせ、話し合わせた。また、話し合い後にもう一度考えをノートに書かせ、話し合いで考えが変わったか確認できるようにした。

(3) 指導の概要

全10時間で江戸時代の学習を扱い、第1時では参勤交代、第2時では大名の配置について学習を行った。地域素材を使った第3時、第4時のみを詳述する。

時	●学習活動	○教師の働きかけ	C児童の反応
3		○地域の史跡について知っていることを発表させた。 ○一里塚について調べさせた。 ○十返舎一九の絵(資料1)を提示し、どのような人が通っていたか話し合わせた。 ○資料2・資料3を提示。当時の日越の様子について話し合わせた。	C古い物があまりない。 C学校の近くに古い松がある。 C旅人が通っていた。C鋤を担いでいるから村人も通っていた。 C楽しそうにあいさつをしている。C松のような木がある。一里塚か。 C刀をもっている武士とお坊さんのような人に見える。
4	 	●関所・馬次について辞書などで調べた。	C知っている地名がある。 C上除と書いてある。喜多もある。 C近くに関所がある。 C関所ってなんだ? C上除に馬次がある。
	資料1 十返舎一九「上除」	資料2 天保2年越後国絵図	資料3 津留所の図
	C関所は物や人を調べるところなんだ。今の役所みたいだ。C馬も替えるなら、旅人が立ち寄ったかも。 C交通の大切な場所だったのかもしれない。 C田舎でなく、人や物が行き来していたと思う。 C昔の地図から海の方まで道がつながっていた。塩を運んだかもしれない。 C佐渡の金山もあるから、江戸と金山を結ぶ道の一つだったかも。 ●日越の江戸時代の様子について話し合いをもとに考えを書いた。		

(4) 授業での児童の変容（3時～4時）

地域と幕府の政策とを結びつけて考えた児童A

資料1の提示で、僧侶や旅人、鋏を担いでいることから村人も利用していたことを見つけた児童Aは、はじめは「日越は田舎でさびしいところ」という考えをもっていた。話し合いでは関所や一里塚があることから、人通りも多く、賑やかだったのではないかという意見を発表した。また、交通の要所というキーワードから、この日越地区は街道の重要な場所であったことに気が付いた。また、関所から幕府の「参勤交代」とかかわらせ、長岡藩がこの街道も使っていたのではないかという意見や（参勤交代では使用しなかったが、冬場の通行で使われた。）佐渡金山が幕府の重要な財源であることから、金も運ばれたり、海とつながっていたりすることから塩を運んでいたのではないかと、という意見を聞き、日越地区を通っていた柏崎街道の役割について長岡藩と幕府の政策とが繋がっていることに気が付くことができた。いつも使っている道が江戸時代からあったことをとらえ、地域の歴史を再発見することができた。

多様な資料から自分の考えをもち、話し合いで深めた児童B

児童Bは宿場が近いこと、喜多・上除があることに気が付いていた。友達の「関所や馬次など役所のようなものがある。」という意見に対して「宿場も近くにある。交通に重要なものが集まっているのではないかと述べた。授業後のまとめでは「塩を運んでいたことや大名行列とも関係がありそうなことが分かった。歩くのは大変ではないと思っていたが、江戸に行くのは大変なことだ。」とはじめの視点とは違う見方ができるようになり、考えの深まりが見られた。

話し合いを通して考えをもつことができた児童C

社会科に苦手意識をもっている児童Cは資料1から「旅人がいる。」ことを読み取った。しかし、資料2・3からは考えを発表できなかった。話し合いの中で「日越は交通の要所だった。」という意見や関所や馬次があったことやいろんな人が通っていたという友達の意見を聞き、「旅人が思っているより、たくさん通っていたと思う。日越は人だけでなく、ものがたくさん行き来していた。」と考えをノートにまとめた。

柏崎街道の役割
 ○最初はいなかっばいと思っただけ
 じ、宿場があたり関所があたりするの、やっぱりいなまじゃなくて人がたくさんいたと思いました。
 ○役割は旅人たちの、休まる場所や馬をかえたりする場所。
 関所で、女をしらバ子のは大名はからてにけ、こんしては、いけないうしめられていたから？
 ○参勤交代金山武家諸法度など、かんけいして、いって、まやくついで、あ金がかからな、あんしん、なみちを行っていた。

児童の授業後のノート

5 実践2

(1) 単元名 新しい日本の国づくりを見つめよう(10時間)～北越戊辰戦争・長岡はどうなったか考えよう～(6時間)

(2) 教材について

幕末は近代国家への変換点であると同時に武士の世の中の終わりでもある。明治政府が誕生するまでには、幕府軍と新政府軍による戊辰戦争が勃発し、国内が内乱状態になった。長岡藩は中立の立場をとっていたが、小千谷会談の決裂により新政府軍と戦うことになる。長岡藩は抵抗を続け、城下は戦場となった。日越地区は柏崎街道を新政府軍が通ったことから、長岡藩と新政府軍の板挟みとなった地域である。幕末の動乱と結び付け、資料をもとに日越の様子について考えさせた。

(3) 手だて

【手だて1】 地域素材の活用

幕末の社会の動きの概略を学習した後、北越戊辰戦争について資料4・資料5を全員に持たせ、調べ学習を行った。長岡藩の動きを年表にまとめ、戦いのすさまじさをつかませた。また、日越地区の松蔵さん(河井継之助の家来)のエピソードなどを取り上げた。さらに「長岡市史」を参考に、長岡藩から非常用途金やわらじなどの拠出を命ずる資料と新政府軍からの人足や食料調達の依頼状の資料を活用し、身近な地域が歴史の舞台であったということに気付かせ、興味・関心をもたせた。

【手だて2】 話し合いの場の工夫

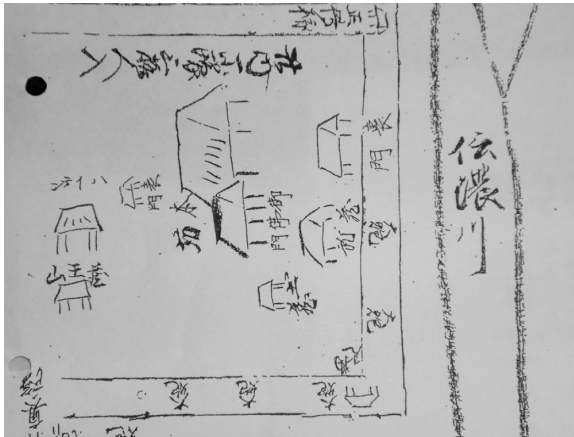
全体での話し合いの前に、グループでの意見交流・意志決定の場を取り入れた。一人一人の考えをグループでまとめることにより、違う立場の考えに気が付くことができるようにした。グループを一つの村と想定し、意志決定させる場

面をつくった。その後、グループの決定を発表させた。最後に「この当時の日越地区はどのような様子であったか」書かせ、話し合いを行った。

(4) 指導の概要 (全10時間)

指導の概要は以下のとおりであるが、第2次を詳述する。

		●学習活動	○教師の働きかけ	C児童の反応
1	1	○黒船がなぜやってきたか考えさせた。●黒船やペリーの絵から当時の人々の様子を考えた。	●ペリーの要求を調べた。	
	2	●開国によって人々のくらしや幕府の政治がどう変わっていったか調べた。○打ちこわしの絵や米の値段のグラフを提示した。		
2	3	○幕末の頃の長岡の様子について調べさせた。		<p>児童作成の年表</p>
	4	●北越戊辰戦争について資料をもとに戦いの様子を調べた。		
	4	○長岡市観光課のパンフレット2冊(資料4・資料5)を配付し、調べさせた。		
	5	○北越戊辰戦争について長岡藩の出来事を年表にまとめさせた。		
	5	○VTR「駆けぬけた時代～北越戊辰戦争・長岡～」を視聴し、静止画を通して長岡藩の幕末の様子をとらえさせた。		
6	○北越戊辰戦争の頃の日越について考えさせた。			
	6	○長岡藩の非常用途金抛出の文書(資料6)と新政府軍からの回状(資料7)を提示。内容をとらえさせた後グループでどうするか話し合わせた。		
<p>C長岡藩とかかわりが深いから、新政府軍に人足を出したくない。 C出さないと、殺されるかも。 C新政府軍の方が攻め込んでいるし、長岡藩の方が不利だよ。 Cビデオで新政府軍が通った所で、家を焼かれたり、殺されたりした所もあったと言っていたから、逆らわない方がいいと思う。 C長岡藩とのつながりもあるから、逆らうのもどうかな。なすとか出せるものは出す。でも人足を出すのは困る。人足だと死ぬかもしれない。結局、長岡藩が負けるから、出した方がいい。 C長岡藩もがんばっているから、出したくない。 ●グループで決まったことを代表が発表した。 C殺されると困るので、出せるものは新政府軍に出す。Cどうしたらいいか、まとまっていない。 C長岡藩も戦いにがんばっている。長岡藩の力になりたいから協力しない。 Cこれからのことを考えて、人足なども出す。 ○当時の混乱していた様子をとらえさせるため、安禅寺領の庄屋が新政府軍に出した長岡藩の砲台の地図(資料8)を提示した。日越地区の当時の様子をノートに書かせ、話し合わせた。</p>				



資料8 安禅寺領の庄屋が新政府軍に届けた砲台の地図

- C 砲台の地図を敵に渡すなんて長岡藩を裏切っている。
 C ひどいと思うが、しかたがない。
 C 自分の村を守りたかったと思う。
 C 裏切るほど、つらい立場だったのではないか。
 C 本当は裏切りたくないと思う。田畑も戦いで荒らされたはず。
 C 新政府軍の通り道で大変だったと思う。
 C 日越も戊辰戦争と関係があることが分かった。
- 日越の様子について話し合いをもとにとらえた。

7	● 米百俵の話を読み、戊辰戦争後の長岡の様子について、話し合った。 C 苦しい生活で、学校をつくることより食べる方が大切だ。C 先のことを考えていて、すごい。
8	● 明治政府の行った諸改革について調べ、その特徴をとらえた。 ○ 五箇条の御誓文を提示した。○ 用語ごとにまとめさせた。
3 9	● 人々のくらしの変化について話し合った。● 国を強くするための政策についてまとめた。 ○ 徴兵令や富国強兵をおさえさせた。
10	● 江戸と明治のまちの様子を比較した。○ 開国後の横浜の絵と明治時代の東京の絵を提示した。 ● 絵からくらしの変化について考えた。

(5) 授業での児童の変容 (3～7時)

地域素材をもとに意欲的に考えた児童

北越戊辰戦争の資料をもとに、河井継之助や小林虎三郎について進んで調べる姿が見られた。長岡での戦いについて、新政府軍と長岡藩の進軍経路の資料を2枚提示した。見慣れない地図で、読み取りに時間がかかったが、1回目の長岡城落城の様子と長岡城奪回を読み取った。再び、長岡城は落城するのだが、このできごとから「長岡藩はあきらめない、ねばり強い。」「幕府を裏切らないところがカッコいい。」など長岡藩に対して誇りをもつ児童がでてきた。また、新政府軍が柏崎街道を通して進軍したことから、児童たちは日越地区は新政府軍ともかかわりがあることに気が付いた。江戸から明治への激動の時代に長岡藩だけでなく日越も関係があることをとらえることができた。

話し合いを通して考えを深めた児童

戊辰戦争が激しくなった慶応4年の古文書を用意した。1つは長岡藩の非常時御用途金の古文書(資料6)である。ここには八千両・非常用わらじ二千足などを戦いに備えて西組に拠出させたものである。もう一つの資料は新政府軍の回状(資料7)である。上除や宝地などから人足の割り当てや味噌・梅干しなどの食料を出すように書かれている。長岡藩と新政府軍のどちらからも援助を求められたことを読み取らせた後で、「新政府軍に人足や食料を出すか。」話し合わせた。まず、自分の考えを明確にした上で、グループでの話し合いを行った。一つのグループを一つの村として、「自分の村は新政府軍に協力するか。」を決定させた。ここで、「何月に出された手紙なのか?」という問いが児童たちの中から出てきた。5月であることを告げると、年表をもとに1回目の長岡城落城のほんの少し前であることに気が付いた。長岡藩が負けそうなところであることから、「自分たちの村を守りたい。」という考えや「やはり長岡藩を裏切ることができない。」「殺されるかもしれないから、できることだけする。」などの意見が出た。

次に安善寺領の庄屋が長岡藩の砲台の地図を密かに新政府軍に渡し、領地を守るようにしたことを知らせた。(資料8) このことは裏切りと受け止めた児童もいたが、それだけ日越地区は大変で混乱していたことをとらえていった。

6 実践の成果と考察

(1) 地域素材の活用の効果

地域素材を取り上げることによって、苦手意識をもっている児童も歴史に興味をもち、授業に進んで参加する姿が見られた。古文書は小学生にとってなじみのあるものではないが、くずし字を分からないながらも読もうとする姿が見られた。歴史学習でもできるだけ具体物を用いることで、より実感をもつことができる。児童が主体的に学習課題にかかわれたのは、自分の知っている地名が登場していることで自分とつながりがあると感じられたからであると考えられる。

(2) 話し合いの場の工夫

話し合いを取り入れ、様々な立場になって考えたり、友達の意見を聞いたりする中で、多様な見方や考え方をすることができるようになってきた。社会的事象について今までと違ったことや資料を提示して考えをもたせるようにしてきた。その結果、話し合いを行う上で、根拠や理由を明確にして意見を発表することができるようになってきた。今回は話し合いの中に意志決定をする場面を取り入れた。このことはより実感をもって、歴史を考えることにつながった。ただ話し合いを取り入れるのではなく、目的を明確にした話し合いは思考力を高めるためには有効である。

7 今後の課題

(1) 地域素材の集積

地域素材を活用し、教材化を図ることで、より実感をもって事象を見ていこう、考えていこうという意欲が高まった。地域によっては資料収集が難しい場合もある。郷土誌や古文書なども含め、専門機関との連携、効果的な教材化の在り方とだれもが活用できる校内・地域での資料集積を図る必要がある。

(2) 思考力が高まる話し合い

グループでの話し合いを多く取り入れたが、深まりが十分とは言えない内容もあった。本実践では、事前に学習したこととかかわらせて学習課題を設定した。しかし、得た知識や考え方が結びつかない児童も見られた。深まりをもたせるために単元構成をいかにすると有効になるのか、明確にしていきたい。さらに、言語活動の充実が求められている。思考力を高めるために話し合いに加えて他の言語活動のあり方を探究することも重要である。書くことを取り入れた指導を行うことの有効性について探していきたい。

〈引用文献・参考文献〉

- 1) 『小学校学習指導要領解説 社会編』文部科学省, 2008, pp.1-5, p.15
- 2) 松岡貴徳「思考力を育てる社会科授業の想像」, 『教育実践研究』No15, 上越教育大学学校教育総合研究センター, 2005, p.37
- 3) 荒井隆浩「思考力を育む歴史的資料の活用について」, 『教育実践研究』No18, 上越教育大学学校教育総合研究センター, 2008, p.43
- 4) 安野功『社会科授業が対話型になっていますか』明治図書, 2005, pp.115-157
- 5) 上掲2)
- 6) 上掲3)
- 7) 『日越郷土史 日越の大地』日越の大地編纂委員会, 2004
- 8) 長岡市史 資料編4

〈参考資料〉

- 資料1 上掲7) P136
 資料2 新潟県歴史の道調査報告書第9集 三国街道Ⅱ・北国街道Ⅲ 新潟県教育委員会
 資料3 上掲7) P139
 資料4 戊辰・河井継之助ゆかりの地 長岡市観光課
 資料5 米百俵巡り観光ガイド 長岡市観光課
 資料6 長岡市立中央図書館蔵 慶応4年「御用留」 長岡市文書資料室 複写資料
 資料7 西蔵王三 安禅寺蔵 慶応3年「御用留記」 長岡市文書資料室 複写資料
 資料8 西蔵王三 安禅寺蔵 慶応4年「御用留記」 長岡市文書資料室 複写資料